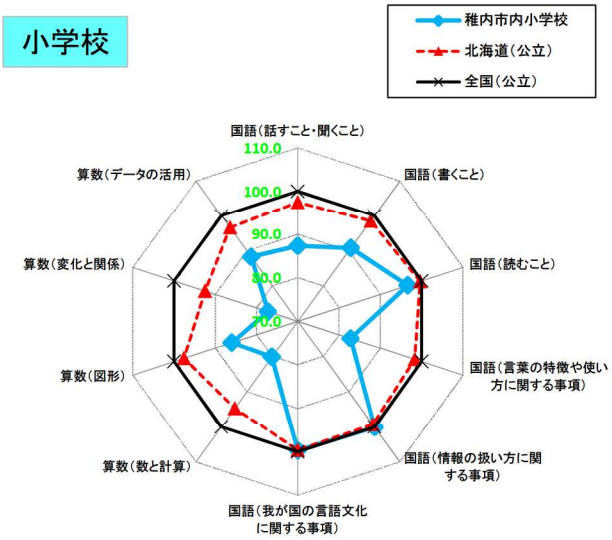
## ■稚内市内の状況及び学力向上策　（小学校数：10校 、児童数：207人）（中学校数：6校 、生徒数：187人）

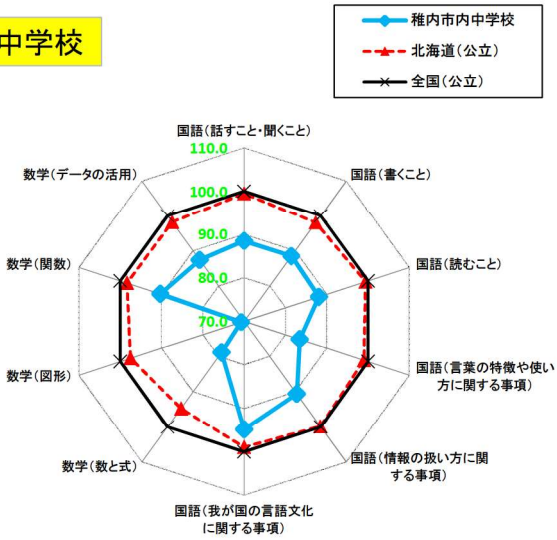
### 【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

**小学校**

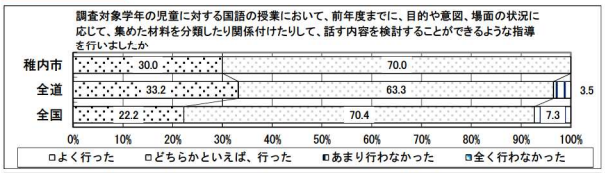


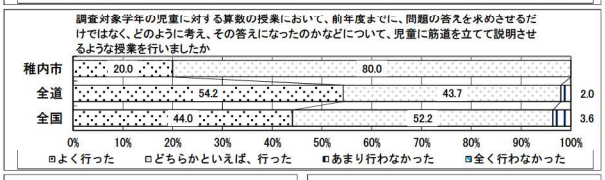

**中学校**

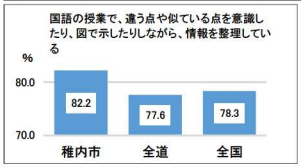


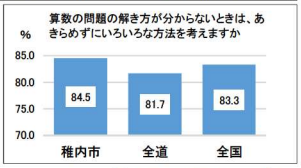

### 【質問調査の状況】

**小学校**

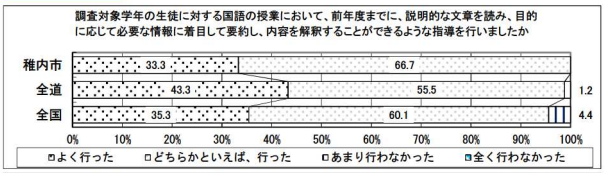


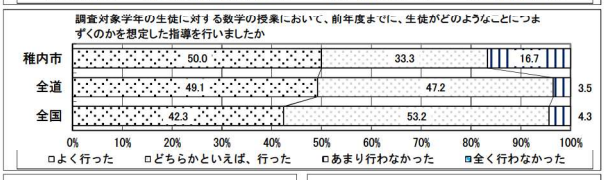



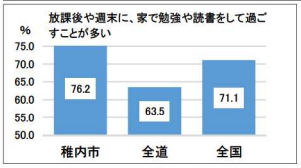



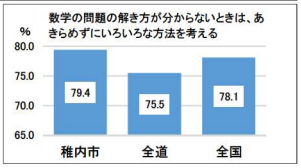




**中学校**




### 【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

各学校が国語の授業において、目的や意図、場面の状況に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして話す内容を検討することができるような指導を行ったことにより、国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理していると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「情報の扱いに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

各学校が算数の授業において、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、算数の問題の解き方が分からないとき、あきらめずにいろいろな方法を考えると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**

各学校が国語の授業において、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるような指導を行ったことにより、放課後や週末に、家で勉強や読書をして過ごすことが多いと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

各学校が数学の授業において、生徒がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えると肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の「関数」の領域で平均正答率が全国及び全道に最も近くなったと考えられる。

### 【稚内市の学力向上策】

【Webページ】

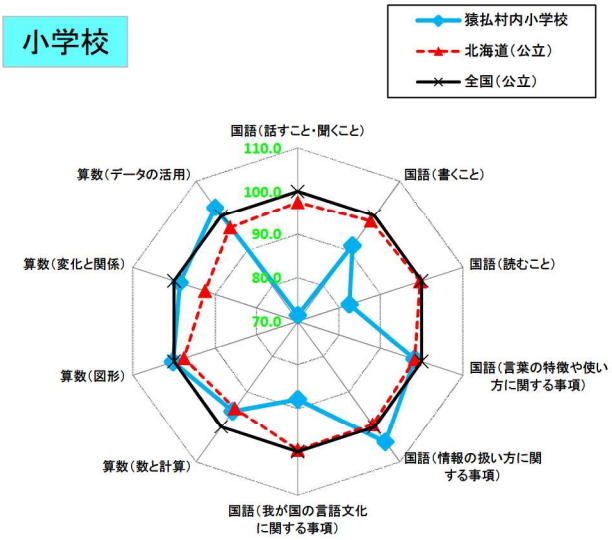
◎　退職教員等による「放課後学力グングン塾」の実施
◎　ICT機器及びAIドリルなどのアプリ等の活用の推進
◎　学びの連続性を確保するための小中連携教育の推進

## ■猿払村内の状況及び学力向上策　（小学校数：4校 、児童数：32人）（中学校数：1校 、生徒数：22人）

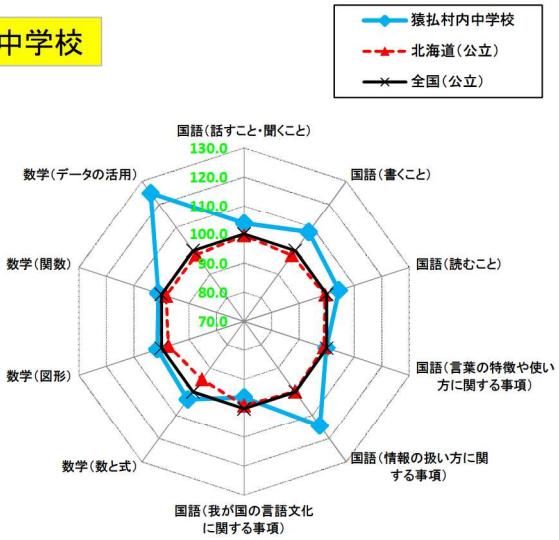
### 【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

**小学校**

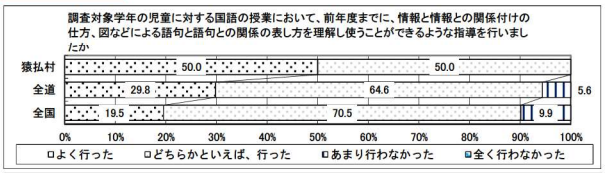


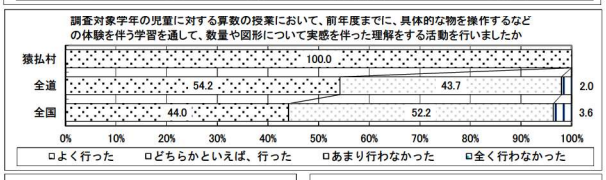

**中学校**

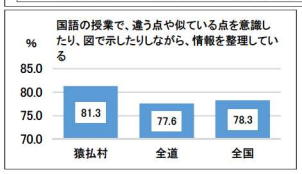


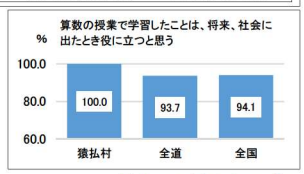

### 【質問調査の状況】

**小学校**

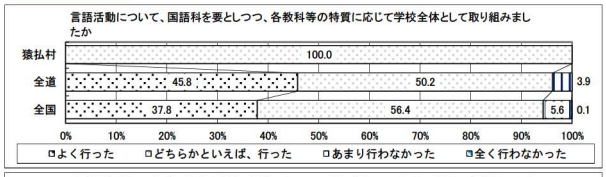


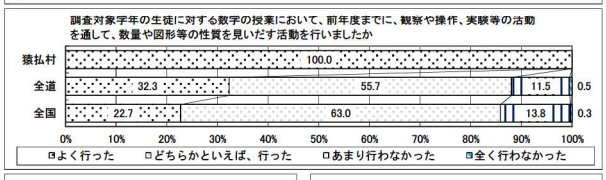



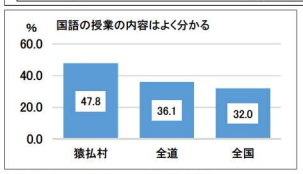



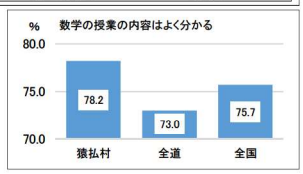




**中学校**




### 【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

各学校が国語の授業において、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるような授業を行ったことにより、国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理していると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「情報の扱いに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

各学校が算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思うと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の「図形」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の3領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行ったことにより、数学の授業の内容はよく分かると肯定的に回答した生徒の割合が全道及び全国を上回ったとともに、数学の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

### 【猿払村の学力向上策】

【Webページ】

◎　AIドリルなど1人1台端末を基盤としたICTの積極的な利活用
◎　猿払村教育研究会による授業実践交流や保小中連携の促進
◎　基礎学力向上や家庭学習の定着のための公設塾「未来塾」の運営

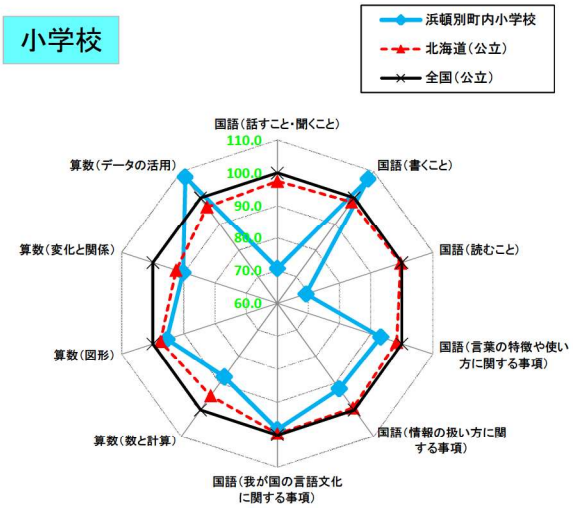
（R6.12掲載予定）

## ■浜頓別町内の状況及び学力向上策　（小学校数：1校 、児童数：15人）（中学校数：1校 、生徒数：14人）

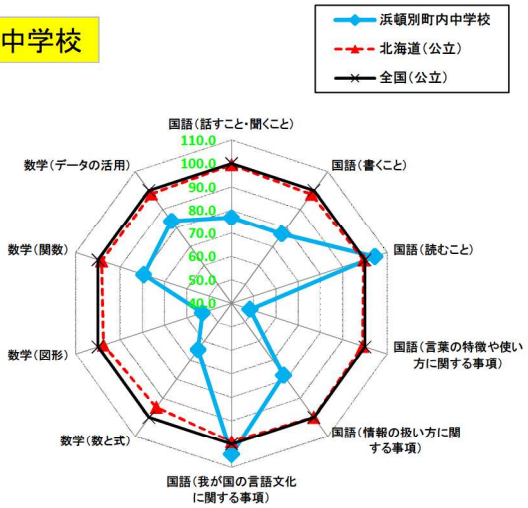
### 【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

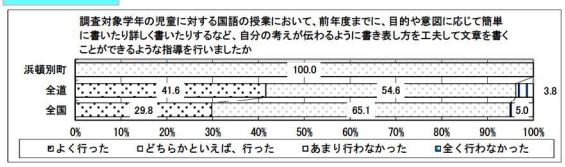


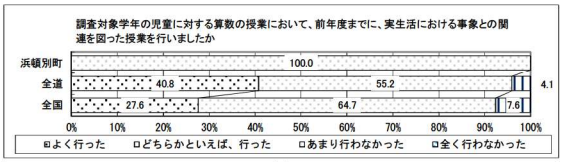

中学校

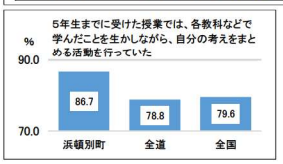


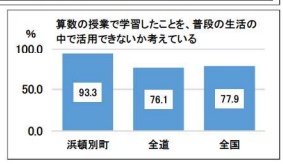

### 【質問調査の状況】

小学校

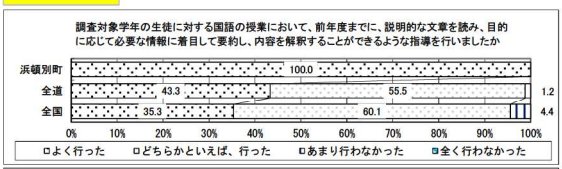


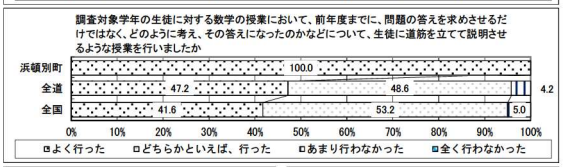



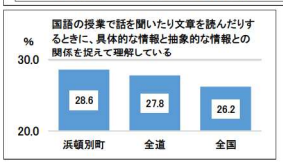



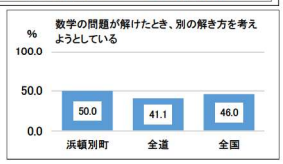




中学校




### 【上記結果の考えられる要因の分析】

| 小学校 | 中学校 |
|---|---|
| 国語の授業において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行ったことにより、各教科などで、学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたと肯定的に回答した児童が全国及び全道を上回ったとともに、「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 | 国語の授業において、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるような指導を行ったことにより、国語の授業で話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解していると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったとともに、「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 |
| 算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えると肯定的に答えた児童の割合が全道及び全国を上回ったとともに、「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 | 数学の授業において、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような指導を行ったことにより、数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていると肯定的に回答する生徒が全国及び全道を上回ったものの、数学の全ての領域で平均正答率が全国及び全道に達していないと考えられる。 |

### 【浜頓別町の学力向上策】

【Webページ】

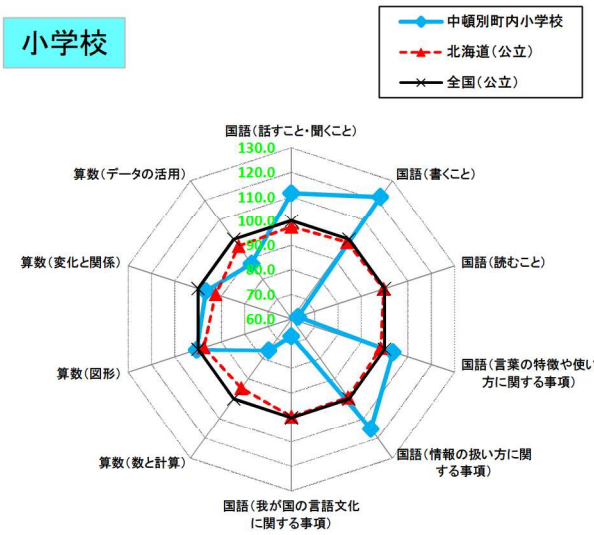
◎　学校力向上に関する総合実践事業に係る町独自の教員の資質向上研修の実施
◎　１人１台端末を活用した授業改善の促進
◎　学力観の転換に伴う地域の学びと教育の情報化のベストミックスをねらいとした地学協働の取組の推進
◎　学力調査のCBT化等に対応するためのIT企業の協力による教員研修の実施

## ■中頓別町内の状況及び学力向上策　（小学校数：1校 、児童数：6人）（中学校数：1校 、生徒数：5人）

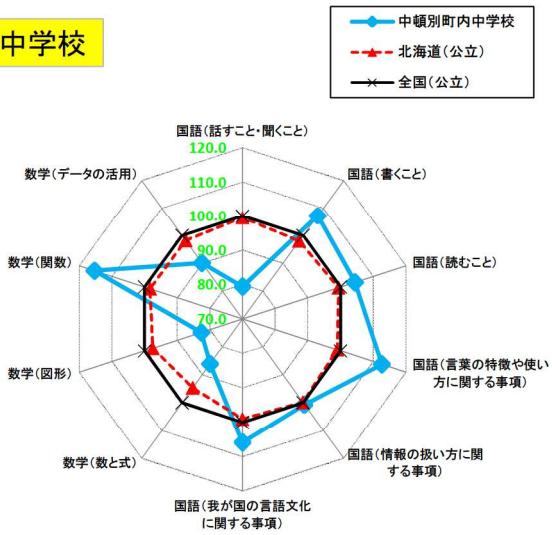
### 【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

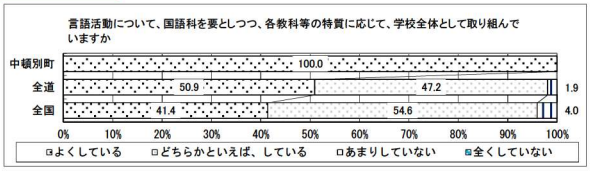


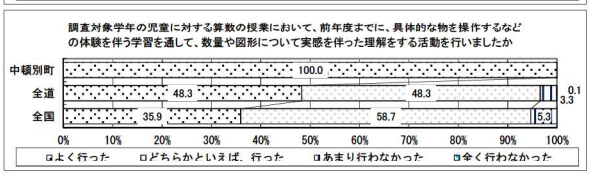

中学校

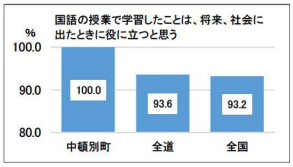


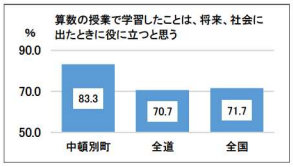

### 【質問調査の状況】

小学校

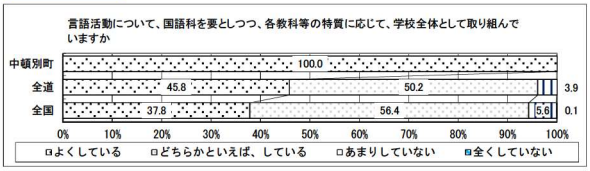


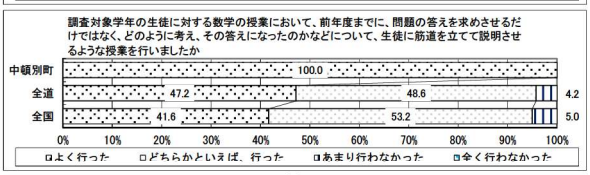



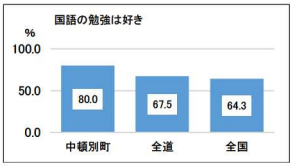



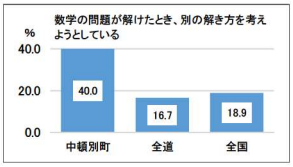




中学校




### 【上記結果の考えられる要因の分析】

| 小学校 | 中学校 |
|---|---|
| 言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 | 言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の勉強が好きと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「書くこと」「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 |
| 算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の「図形」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 | 数学の授業において、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の「関数」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 |

### 【中頓別町の学力向上策】

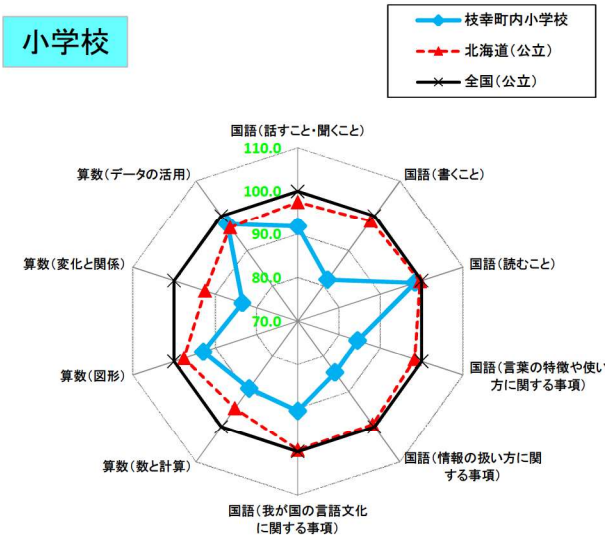
◎ 中頓別町教育研究会への支援、中頓別町・浜頓別町合同研究会の開催
◎ なかとん学習塾での学力向上支援、町指導主事による授業力向上支援の充実
◎ 校内での教師の資質向上、授業力向上を目指す各学校における「ミニ研修」の実施

## ■枝幸町内の状況及び学力向上策　（小学校数：7校 、児童数：34人）（中学校数：3校 、生徒数：55人）

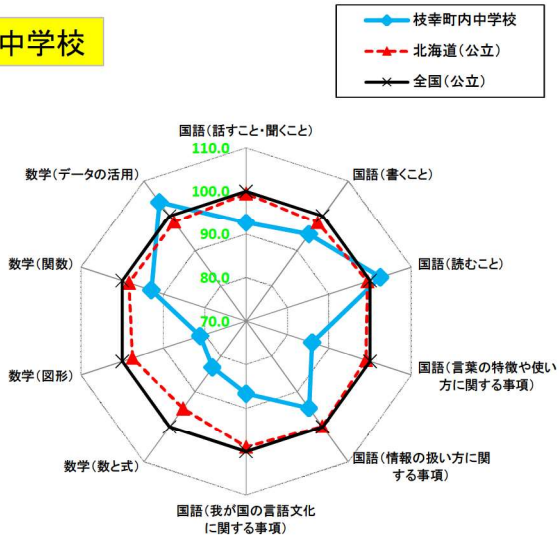
### 【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

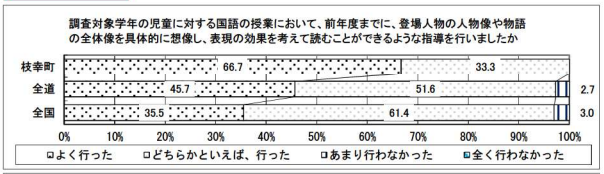


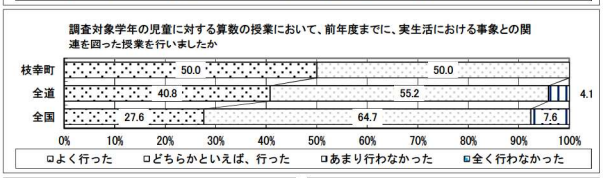

中学校

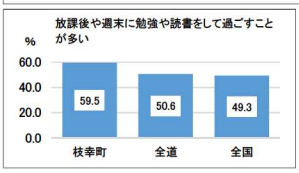


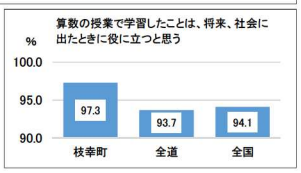

### 【質問調査の状況】

小学校

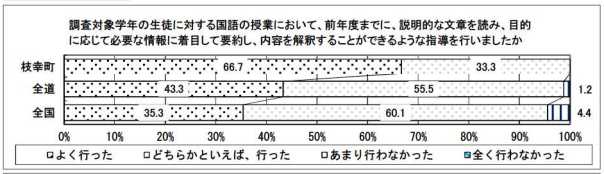


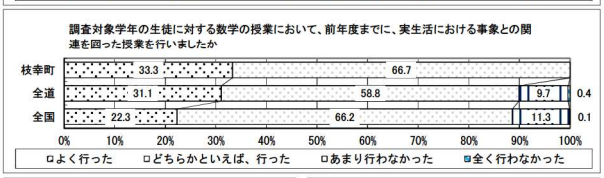



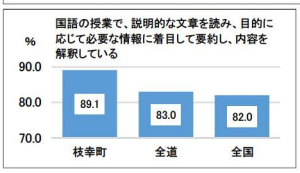



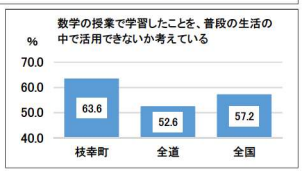




中学校




### 【上記結果の考えられる要因の分析】

| 小学校 | 中学校 |
|---|---|
| 各学校が国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて、読むことができるような指導を行ったことにより、放課後や週末に、家で勉強や読書をして過ごすことが多いと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道に最も近くなったと考えられる。 | 各学校が国語の授業において、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるような指導を行ったことにより、国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈していると肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 |
| 各学校が算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。 | 各学校が数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えると肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 |

### 【枝幸町の学力向上策】

【Webページ】

◎　全国学力・学習状況調査の調査結果の分析を踏まえた検証改善サイクルの確立と授業改善の取組の推進

◎　「えさしっ子の未来を拓く十か条」を生かした、学校・家庭・地域が一体となった学習習慣、生活習慣改善の取組の推進

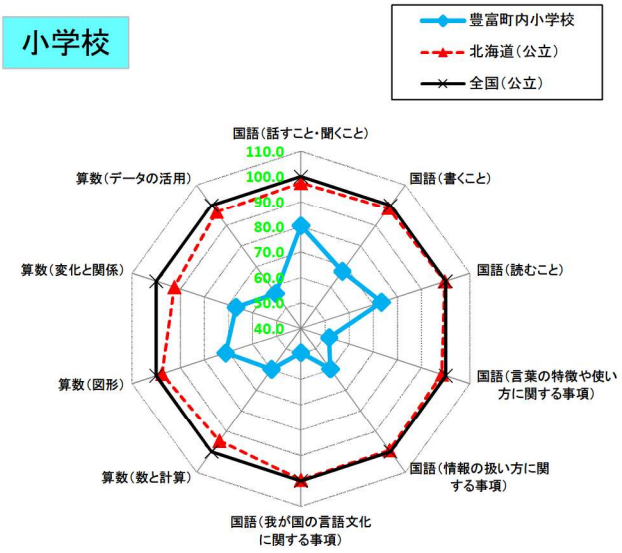
◎　「家庭学習のとびら」を活用した学習習慣の確立を図る取組の推進

## ■豊富町内の状況及び学力向上策　（小学校数：2校 、児童数：27人）（中学校数：2校 、生徒数：26人）

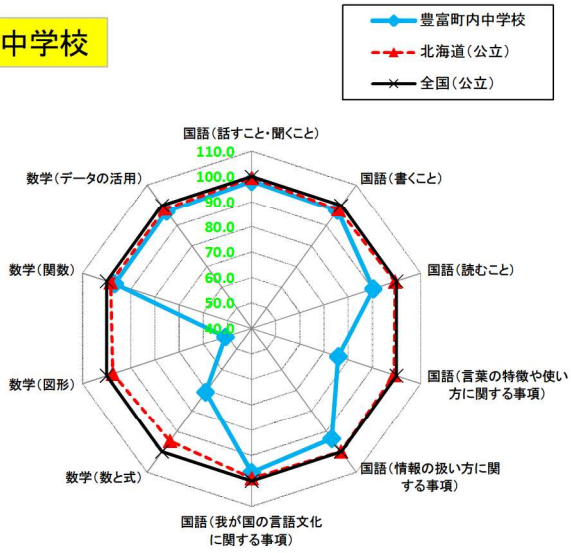
### 【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

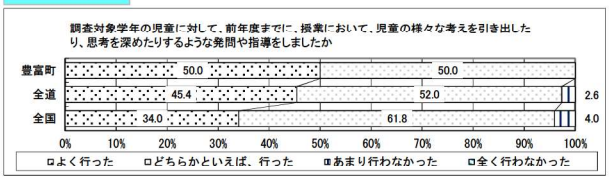


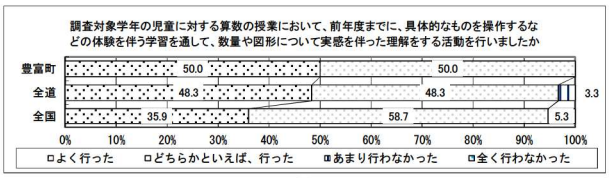

中学校

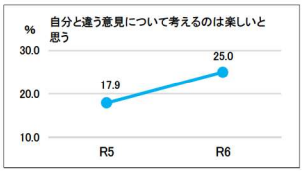


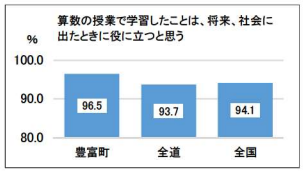

### 【質問調査の状況】

小学校

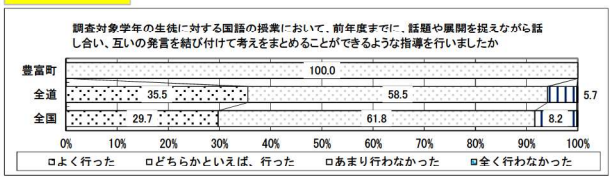


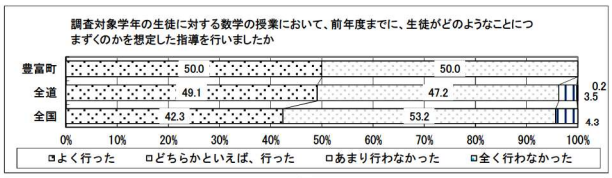



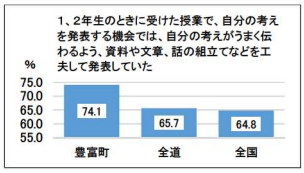



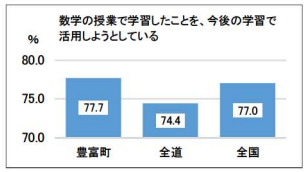




中学校




### 【上記結果の考えられる要因の分析】

| 小学校 | 中学校 |
|---|---|
| 各学校の授業において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行ったことにより、自分と違う意見について考えるのは楽しいと回答した児童の割合が昨年度の割合を上回ったとともに、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道に最も近くなったと考えられる。 | 各学校が国語の授業において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるような指導を行ったことにより、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表したと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道に最も近くなったと考えられる。 |
| 各学校が算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。 | 各学校が数学の授業において、生徒がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、数学の授業で学習したことを今後の学習で活用しようと思うと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 |

### 【豊富町の学力向上策】

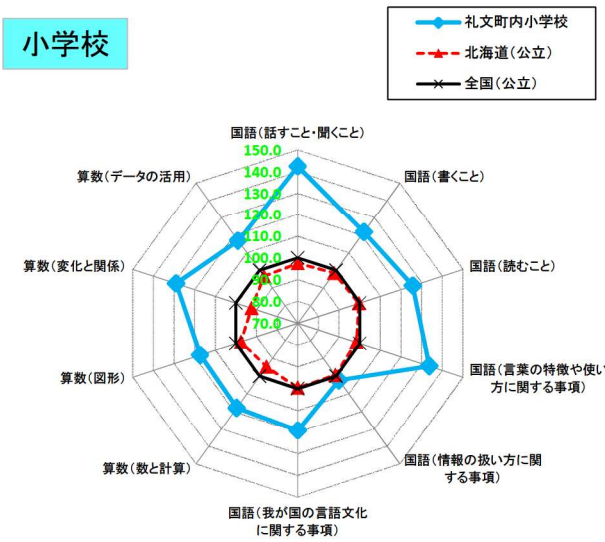
◎　近隣の大学、高校と連携した学びの教室の開催
◎　小学生・中学生を対象とした公設による学習塾の設置
◎　ALT（外国語指導助手）との協働学習の推進

## ■礼文町内の状況及び学力向上策　（小学校数：2校 、児童数：9人）（中学校数：2校 、生徒数：15人）

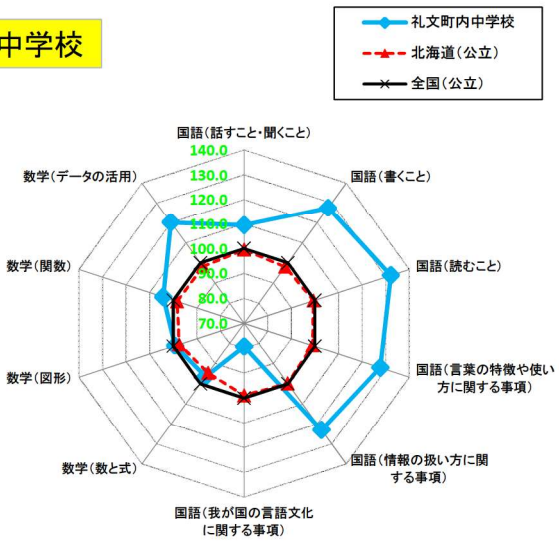
### 【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

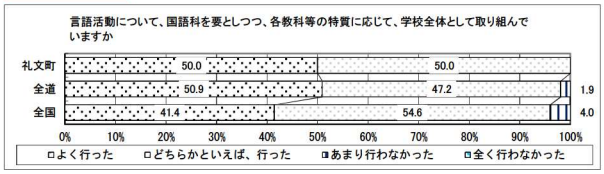


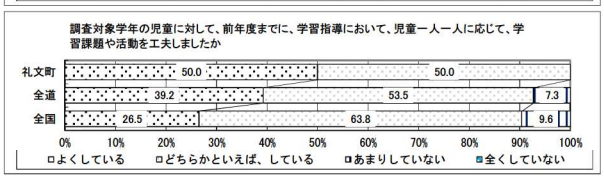

中学校

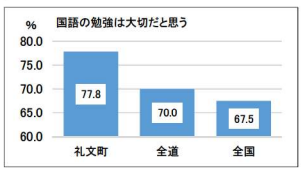


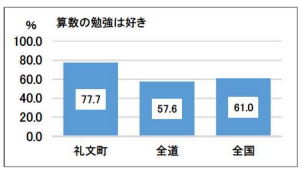

### 【質問調査の状況】

小学校

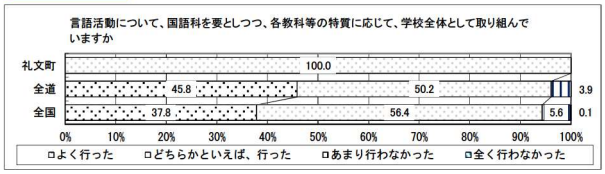


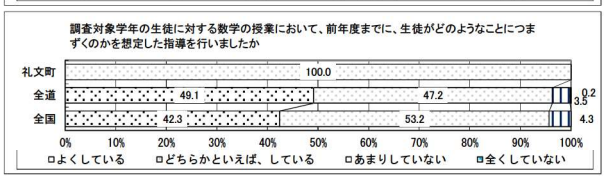



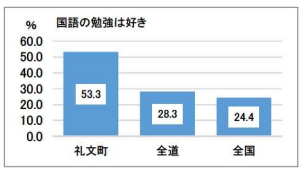



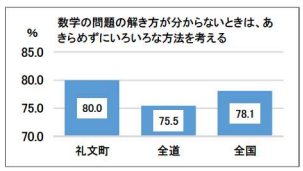




中学校




### 【上記結果の考えられる要因の分析】

| 小学校 | 中学校 |
|---|---|
| 言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 | 言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の勉強が好きだと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の3領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 |
| 各学校の学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、算数の勉強は好きだと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 | 各学校が数学の授業において、生徒がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えると肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の「関数」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 |

### 【礼文町の学力向上策】

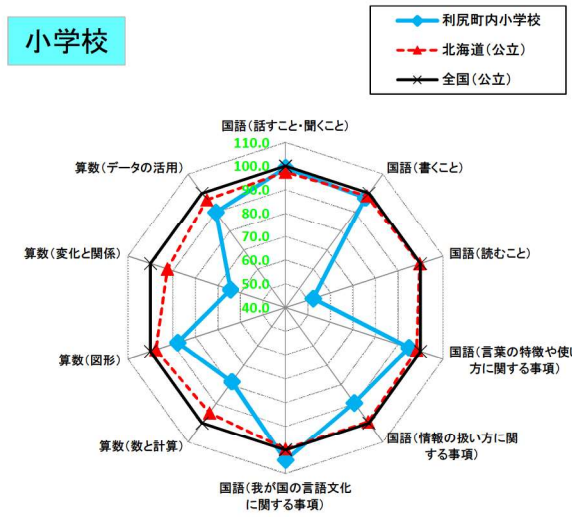
◎　観光大使活動などを通して地域について学ぶ「礼文学」「礼文検定」の実施
◎　1人1台端末を有効活用した学習活動の充実
◎　全国学力・学習状況調査結果を踏まえた学校ごとの「学校改善プラン」の作成

## ■利尻町内の状況及び学力向上策　（小学校数：2校 、児童数：9人）（中学校数：1校 、生徒数：8人）

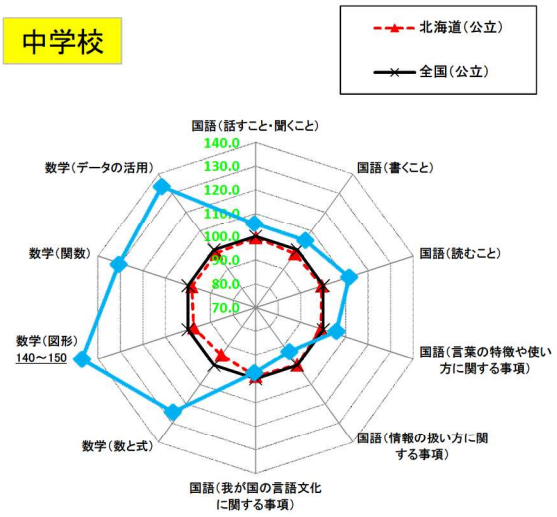
### 【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

**小学校**

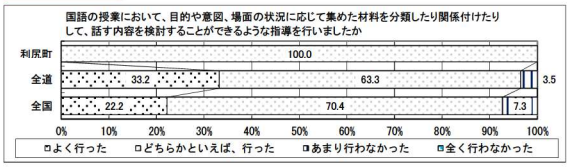


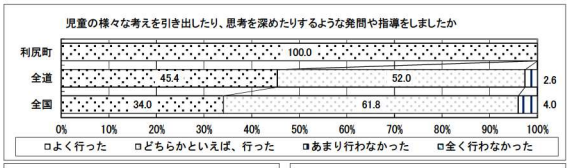

**中学校**

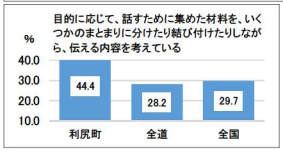


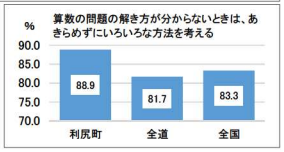

### 【質問調査の状況】

**小学校**

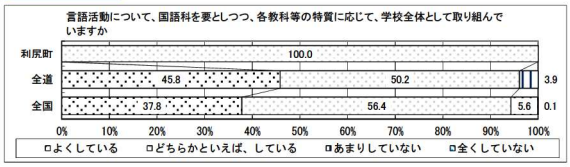


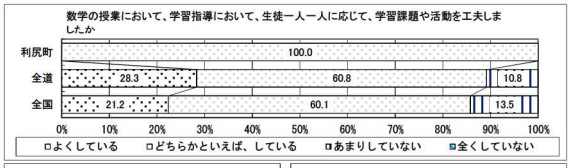



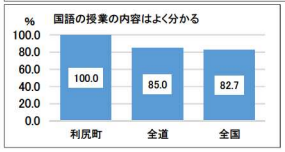



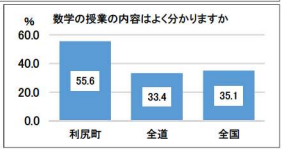




**中学校**




### 【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

各学校の国語の授業において、目的や意図、場面の状況に応じて集めた材料を分類したり関係付けたりして、話す内容を検討することができるような指導を行ったことにより、国語の授業で、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全道を上回ったと考えられる。

各学校の授業において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしたことにより、算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

**中学校**

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の授業の内容はよく分かると肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の3領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、数学の授業の内容はよく分かると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったとともに、数学の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

### 【利尻町の学力向上策】

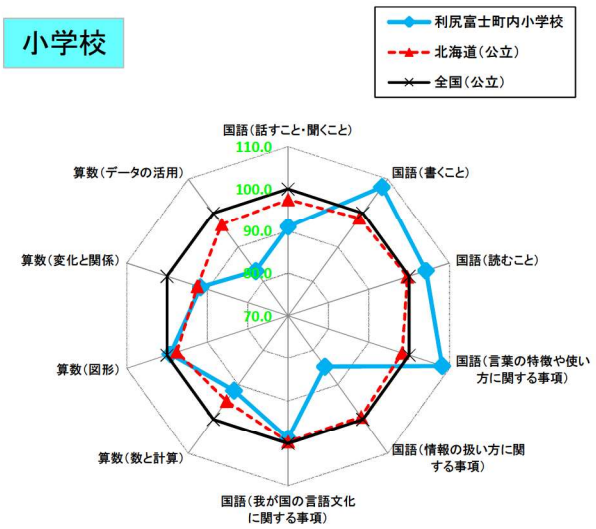
◎　CRT学力検査の実施
◎　島内小・中学校間連携による教員の資質能力の向上
◎　大学生を活用した学力向上推進事業の実施（教育委員会社会教育事業）
◎　中学生を対象とした公設塾の設置

## ■利尻富士町内の状況及び学力向上策　（小学校数:2校 、児童数:19人）（中学校数:2校 、生徒数:17人）

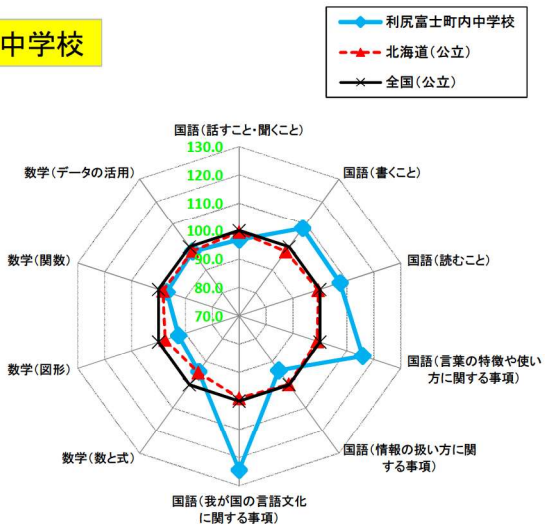
### 【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

**小学校**

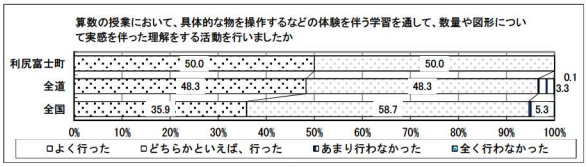


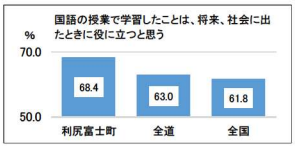

**中学校**

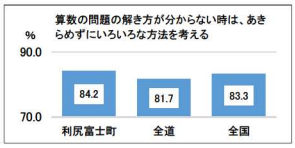



### 【質問調査の状況】

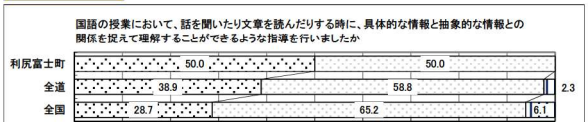
**小学校**

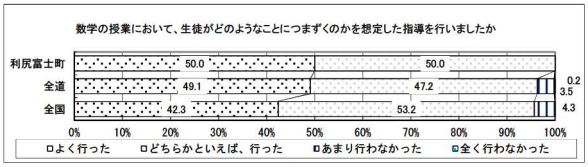


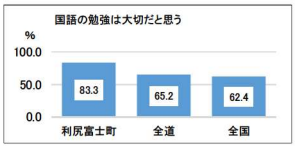



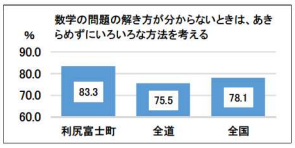




**中学校**




### 【上記結果の考えられる要因の分析】

**小学校**

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科の特質に応じて、学校全体として取り組んだことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思うと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「書くこと」「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

各学校の算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の「図形」の領域で平均正答率が全国及び全道に最も近くなったと考えられる。

**中学校**

各学校の国語の授業において、話を聞いたり、文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解することができるような指導を行ったことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「書くこと」「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

各学校の数学の授業において、生徒がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行ったことにより、数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えると、肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道に最も近くなったと考えられる。

### 【利尻富士町の学力向上策】

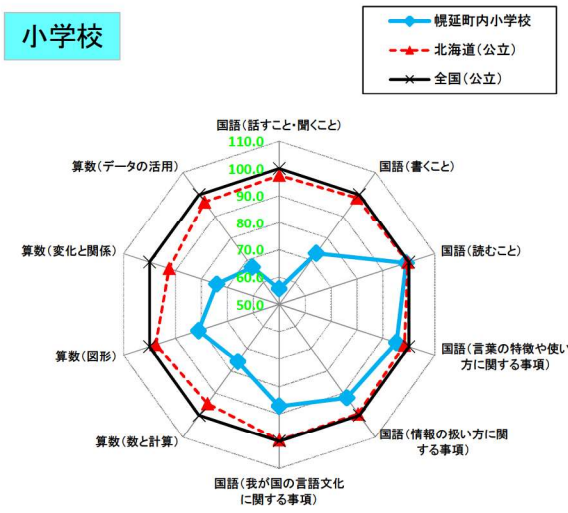
◎　全国学力・学習状況調査の結果分析に基づく個に応じた指導の改善・充実
◎　小中連携による乗り入れ指導の実施、TT指導・習熟度別学習の推進
◎　１人１台端末、ICT機器AIアプリを活用した授業及び学習の推進
◎　各種検定受検料の助成（令和４年度より１回目合格者を対象に、助成回数を２回に増加）

## ■幌延町内の状況及び学力向上策　（小学校数：2校 、児童数：20人）（中学校数：2校 、生徒数：19人）

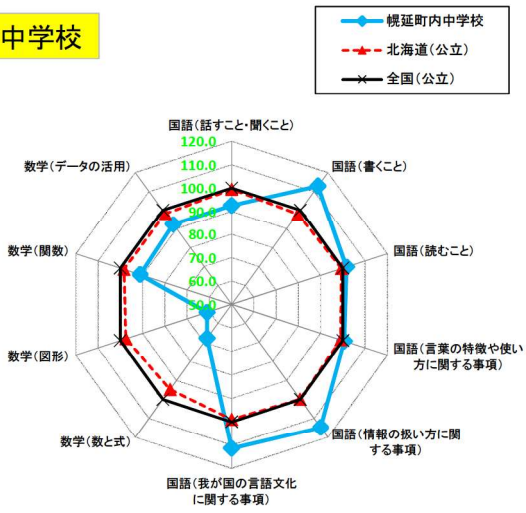
### 【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

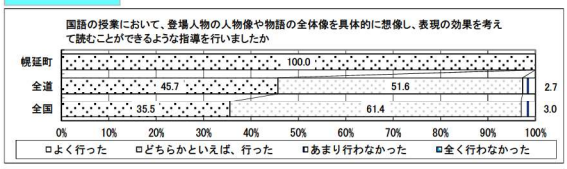


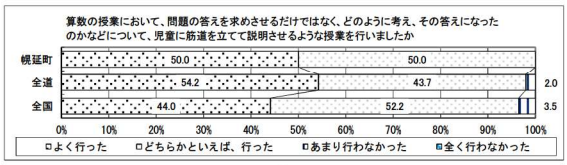

中学校

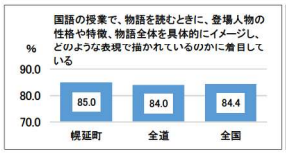


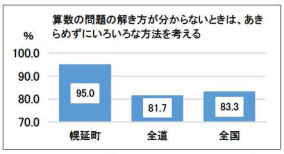

### 【質問調査の状況】

小学校

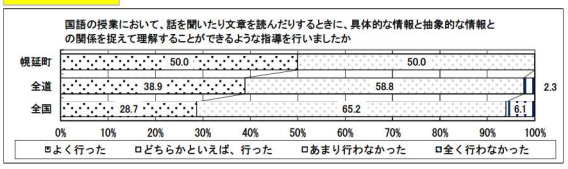


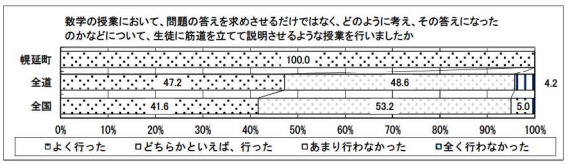



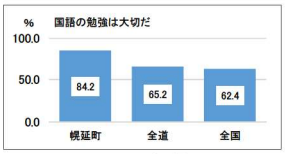



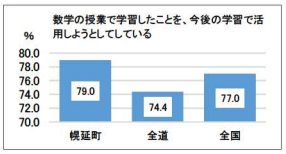




中学校




### 【上記結果の考えられる要因の分析】

| 小学校 | 中学校 |
|---|---|
| 各学校が国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるよう指導を行ったことにより、国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で書かれているかに着目していると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道に最も近くなったと考えられる。 | 各学校が国語の授業において、話を聞いたり、文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解することができるような指導を行ったことにより、国語の勉強は大切だと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の2領域3事項で平均正答率が全道及び全国の平均正答率を上回ったと考えられる。 |
| 各学校が算数の授業において、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、算数の問題の解き方が分からない時は、あきらめずにいろいろな方法を考えていると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。 | 各学校が数学の授業において、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、数学の授業で学習したことを、今後の学習で活用しようとしていると肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道に最も近くなったと考えられる。 |

### 【幌延町の学力向上策】

◎　学校ごとの学力向上プランの実施と評価
◎　ティーム・ティーチングや習熟度別学習、個別学習など、指導体制の充実
◎　振り返りの時間と家庭学習のリンクによる学びの定着
◎　遠隔教育特例校制度やAIドリルの活用など、学力向上に向けたICT機器の活用